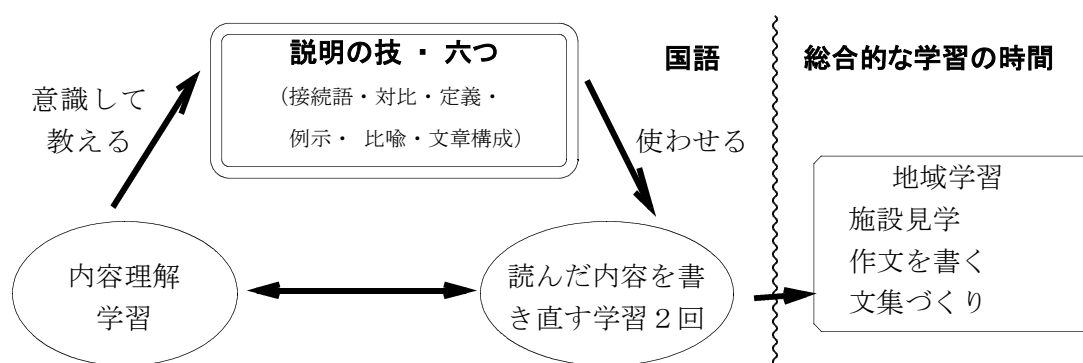


## B-2 指導上の工夫

### ①指導法の工夫

説明文学習といえば、形式段落ごとに読んでいき、小見出しを付けたり、要約したり、発展学習として図書やインターネットで調べ学習をしたりと、画一的な読みの学習で終わっていることが多くないだろうか。「この単位ではこんな国語の力が付いた」とはなかなか実感させられない状況に、陥っていないだろうか。では、説明文が読めるようになった、と判断するのは、何ができるようになればいいのだろうか。たまたま出会った教材文の「内容理解」を目的とするだけでは、あまり役には立たないのではないだろうか。日常生活で新聞や図書を読む際、そして、別の説明的な文章を学習する際にも、今回勉強したことがおおいに役に立つという実感を抱かせる授業を展開するにはどうすればいいのだろうか。

それは、内容理解だけでなく、「説明文の形式」「表現の特徴」「学習の仕方」を身に付けさせればいいのではないだろうか。では、その要素は何なのかを考えてみた。教材の「未来をひらく微生物」を分析しながら、また目の前の生徒の実態を鑑みながら、今回は六つの要素を取り上げることとした。その要素を「習得」させるべき「説明の技」として設定した。内容を読みながらその効果を理解し、一方で、その技を使いながら、読みとった内容を自分で書き直してみるという学習を三度繰り返すこととした。



ア 説明文学習の「習得」させるべき「説明の技」を設定した。

この教材では「接続語」「対比」「定義」「例示」「比喩」「文章構成」という六つを「説明の技」として設定し、授業の中で順次扱った。

イ 読みながら書く学習を繰り返した。

部分を読んでいく際に、読みとった内容を「微生物が役に立つということ」「微生物が地球を掃除しているということ」「生分解性プラスチックにはどんなものか」等という課題について、書いて説明させた。その際に、「ア」で挙げた「説明の技」を使うことを条件とした。

ウ 徐々に高いレベルの課題を与えた。

以下のように話題や相手、字数などの条件が徐々に難しくなるように設定した。

- ①「『食品に関して役に立つ微生物もいる』『微生物が地球を掃除している』のいずれかについて、小学五年生に二百字程度で説明する」
- ②「安いので、普通の歯ブラシを買おうとしているおばあちゃんに『生分解性プラスチック』の歯ブラシを薦めるための文章を三百字程度で書く」
- ③以下の三つの課題から一つを選んで四百字から八百字の作文を書く。
  - ・「珠洲市にある『バイオマスメタン発酵施設』でどのように微生物が有効に利用されているか、金沢の中学一年生に説明する」
  - ・「この施設がどのように環境にいいのか、小学5年生に説明する」
  - ・「この施設が珠洲市にできた経緯や理念を、市民に説明する」

エ 地域学習に繋がった。

「ウの③」に示したように、総合的な学習の時間と関連させて行った。地域の施設で微生物が有効活用されている現場を見学に行き、それを元に説明文を書いた。そして、文集としてまとめた。

## ②授業構成の工夫

少人数という特徴を生かし、一人一人の力の向上を丁寧に指導する授業を目標とした。実際に行ったことは三点である。一点目は、導入の学習課題を把握させる段階を重視したこと。具体的には授業の初めに「学習課題」を必ず明記し、授業の終わりに学習の取組を自己評価させた。この時間で何がわかったのか、わからなかったのかを記録させた。二点目は、ペア学習やグループ学習の重視である。個人学習と全体指導の間にこれらの学習を挟むことによって、全体での発言ができなくても、ペアやグループで意見交換することで、自分の思考の深まりを意識させることとした。三点目は、ノート指導である。ノートを学習の足跡として捉え、毎時間ごとに回収、点検し、コメント指導を続けた。ただ黒板を写して終わりではなく、何をどう記録するのもも適宜指導し、自分の学習の成果を確認するために大切にしようと訴えた。

ア 「学習課題」を明記し、「自己評価」するというスタイルの徹底

何について考え学ぶのかという「学習課題」を板書し、生徒にもノートに書かせた。授業の終わりには、「自己評価」させて点検した。また、必要に応じてどんな力を付けるために何に気を付けて学ぶのかという「取組課題」も併せて示した。

イ ペア学習、グループ学習の重視

内容の読み取り、作文の相互評価などを、3、4人のグループで繰り返し行った。ペアやグループ学習に入る前に、個人の意見を書き出させたり、個別指導で作文を仕上げさせておき、全員の学習が深まることを意図した。

ウ ノート指導の重視

板書、自分の考えの変遷、友達の意見、授業でわかったこと、分からなかったことなどを記録し毎回提出するものとした。ワークシートを貼ったり、付箋に書かれた友達の意見を貼ったりと、毎回の学習の足跡となるノート作りをしようと呼びかけている。教師側は、個々の到達度や躓きをチェックし、次時の授業展開に生かすものとした。また、個別に励ましやアドバイスを付して、次への意欲に繋がるように意識した。